

## 佳作

# 感動したこと

広島県 東広島市立高屋西小学校五年 木浦 峻太

ぼくは、九月十四日に目の手術をするために広島市民病院に入院しました。その時に感動したことがいくつかありました。

一つ目は、入院したらすぐ、ぼくの手首に白いリストバンドをかんごしさんがつけました。そのリストバンドには、ぼくの名前と数字とおかしなどについているバーコードがありました。その他にも、ごはんのおぜんについている紙や、点てきについているシールも同じ様に名前と数字とバーコードがありました。ぼくは、名前は分かるけど、なんでバーコードがついているんだろうかと思いました。

手術の時も手術室に入ったら、まずかんごしさんが、ぼくの名前と、どこの手術をするかを聞いて、ぼくがこたえた後、リストバンドにもレジでピッと機械をかざすようにしていました。何でそんなことをするんだらうと不しぎに思ってたかんごしさんに聞いてみました。すると、

「他の人とまちがったらいけないからだよ。」

このバーコードをピッとすると、木浦峻太君って分かるようになってるんよ。」

と教えてくれました。ぼくは、自分だけのバーコードがあつてすごいなあと思つたし、おかしの箱になつたみたいで楽しかつたです。

二つ目は、ますいの事です。ぼくは、一年生の時にも全身ますいで手術をしたことがあるけど、今回の手術もますい科の先生が、

「ねている間に終わるからこわくないからね。」

といつていたように、手術は四時間位かつたらしいのに、ぼくは全くいたくなくなつたし、手術のことは全く覚えていません。ぼくは、ますいを考えた人、四時間もの間ぼくの手術をしてくれた先生や、かんごしさんはすごいなあと思いました。

三つ目は、ガーゼが思つてたより早くとれたことです。手術が終わつて気付くと、目の下にガーゼが当ててあつて、退院までに外せるかなと思つていたら、手術して二日目の朝、先生が、

「ガーゼ、もうしなくていいからね。」

と消毒してなんこうだけぬりました。ぼくはよくテレビとかで手術をした後はしばらくガーゼをしているのに、ぼくは二日目でガーゼを外したのでびっくりしました。ガーゼをしていなくてもきずはきれいで、ばいきんなども大じょう夫みたいで、すごいなあと思いました。

このように、今回の入院では、ぼくの知らなかつたことが色々あつてびっくりしたけど、ぼくの手術よりもおもしろい手術をする先生や、夜中でも働いているかんごしさんや色々な新しい物を考えている人がいることにぼくは感動しました。

先生のおかげで目がチカチカしなくなつたのでうれしいです。